



蒋介石の銅像の前で

教育分野でも、制度は日本と変わらず、何ら遜色もない。ただ、そのために日本と同じように学歴社会が蔓延

校生以上が乗用しているが、現在、高校生の交通事故が多くて頭を悩ましているそうであ

り、台湾では「日本人つて。」と言う言葉がついて回る。危機感はどんどん増してていく。

「中華民国」と言われてすぐには分からない。実は台湾の正式名称である。

とはいえ、恥かしながら私は予備知識が全くない。他の大学からもかなりの数が集まるとき、大きな危機感をもつ。他の大学生には、「広大生って、無知だ。」と思われてはいけない。ましてや、台湾では「日本人つて。」と言う言葉がついて回る。危機感はどんどん増していく。

「村林君、中華民国に行つてみないか。」指導教官である西山教授のこの言葉が全ての始まりであった。しかし、

日本大学生代表訪華団見聞録

向学心旺盛な大学生、平和な日本を反省

学校教育研究科 学校教育専攻 修士課程二年

村林 康彦



宿泊所にて友人と（右側…筆者）

し、そのために非行や登校拒否などの不適応現象も起つてゐるようである。また、大学生も向学心旺盛で、日本語専攻の学生と話をしてると、私はどうしても広島弁が出てしまうため、どちらが本当の日本人か分からなくなる。日本全国から招待された学生は、男女併せて六十名であるが、その我々を迎えたものは、日本と全く変わらない街の景観であった。

街では、人々は、かつて日本の侵略を受けていたるにあから驚きである。どうしても日本語では通じないと、「英語なら分かる。」と言われ、閉口する。

街では、人々は、かつて日本の侵略を受けていたるにあから驚きである。どうしても日本語では通じないと、「英語なら分かる。」と言わ�、閉口する。

ただ、食文化が違うため、料理には当たりはずれがあり、私たちを困惑させる。烏龍茶は、人々は砂糖を入れて飲むため、口に合わない。ようやく缶で、無糖の烏龍茶を見つけ狂喜するも、日本製であつた。

未来への憂いが浮き彫りにされていく。我々は、日本にいる間は、自分の回りしか見えず、無為に時間を過ごしていくことを思い知られる。平和な国、日本に守られ、我々はただただ現状に満足しきつていてことを反省した。

最後に、台湾の大学生である陳さんの言葉を借りる。我々が、深く考えさせられた言葉である。「日本はいいです、ね、平和で。私は、九月から二年間の兵役にいかないといけません。もしかすると、運悪く怪我をしたり、死んでしまうかも知れません。せっかく今まで勉強してきたのに、無駄になるかも知れません。もっと勉強する時間が欲しかったです。本当に日本はいいですね。うらやましいです。」



日本大学生代表訪華団全員で 中正記念堂にて